

学園タイムス

Sagaseishigakuen times

2015-12 Vol. **9**

社会福祉法人 佐賀整肢学園

佐賀県内を走る電車シリーズ

「JR九州「ハウステンボス号」

長崎県佐世保市に所在するテーマパークハウステンボスの開業に合わせて、1992年に運転を開始しました。博多駅（福岡市）からハウステンボス駅間の途中、佐賀駅等を経由して運行している特急列車です。



巻頭言…2

REPORTS…3・4

事業所紹介…5

事業所 TOPICS…6・7

タイムス特集…8

学園 FOCUS…9

局長随想 リレーコラム…10

ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10

大正6年10月設立 「佐賀養老院」



佐賀整肢学園・佐賀向陽園
施設長

古川 政弘

今年も、あっという間に11月・・・透き通った空気に身が締る季節です。本号が皆さんの手元に届く頃は、師走の慌ただしい頃だと思います。

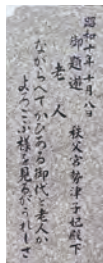
毎年この頃になると思い出すのは、佐賀県立福祉施設の民間移譲事業で、平成19年の救護施設「県立日の隈寮」に続き、翌年も当施設の前身である「県立養護老人ホーム佐賀向陽園」が法人へ経営移譲が決まり、慌ただしくその移管準備を法人本部で担当していた頃のことです。現在は、縁あって当園施設長に任せられ、大過なく6年目を迎えております。これも偏に関係行政、医療及び福祉団体並びに地域住民の皆様の日頃のご指導、鞭撻の賜と感謝申しあげます。

さて、当園の沿革は、昭和25年4月に経営が県に移譲され県立佐賀向陽園と改称、昭和30年10月佐賀市金立町（現在地）に新築移転、昭和38年8月老人福祉法施行に伴い「養護老人ホーム佐賀向陽園」に改称、そして平成21年4月より当法人に移譲されました。当法人の設立が、昭和35年8月ですので、それより長い歴史ある施設です。

当園の歴史にはまだ続きがあります。今から遡ること、98年前、大正6年10月、護国神社の南隣（川原小路）に、渡辺鉄肝和尚（佐賀市 天福院第27代住職）が創設した曹洞宗佐賀仏教婦人会に働きかけ「佐賀養老院（定員38名）」を開設、これが「佐賀向陽園」の源流です。

創始者の渡辺鉄肝和尚は、日本初の養老院を佐賀に建てた事で知られています。明治40年アメリカへ留学した鉄肝和尚は、勉強に打ち込む一方、貧困者救済にも関わり、日本に帰国した後、アメリカに見習って養老院を建設されました。以来、その運営に心血を注ぎ、天福院との間を下駄の音高く往復する姿を見て、人々は「鉄肝さん」と呼び敬愛されたそうです。この様子を裏付けるかのような記述が、「当寺住職渡辺鉄肝師は、夙に仏教徒本来の使命を体得し不幸なる老貧者を救い、安住することに志し・・・」と天福院境内の記念碑にあります。

大正7年7月に佐賀市与賀町170番地に移転。更に昭和



2年院舎の大増築、そして昭和8年3月には院内に診療所を付設、病棟を建設し収容老人の天寿を全うできるようにすると共に、一般貧困者への医療の提供にも尽力されたそうです。

昭和7年7月、救護法施行に伴い救護施設認可
昭和21年12月、生活保護法施行に伴い保護施設認可
その後、戦後の幾多の試練を乗り越えてきたが、施設経営困難により、昭和25年4月、県に移譲「県立佐賀向陽園」と改称。

県内では、最も歴史の長い法人である済済園（塩田町）さんが、昭和3年に昭和天皇の御即位御大典祈念事業として養老事業を起こされたそうですが、その約11年前に、佐賀向陽園の歴史が始まっています。

現在も天福院の入り口には、「佐賀養老院」と書かれた大きなお墓が祭られてあり、当時養老院で亡くなられ身寄りのない人々が葬られ、今でも手厚い供養が行われています。

また、当法人に移譲されてからも、毎年8月（お盆前）には、当園入所者と一緒に墓の掃除を兼ねてお参りし、現任職様（鉄肝和尚の末息子様）に当時の様子をお伺いするなど交流を続けています。



事業
計画

福岡県糸島市への事業所設置について

糸島医療福祉センター（仮称）



佐賀整肢学園では、平成28年と平成29年にかけて福岡県糸島市に新規事業を開設する計画を進めています。

福岡県糸島市は福岡県西部に位置しており佐賀県唐津市と隣接しています。

糸島市は人口10万人規模の市ですが、障害児が利用できる児童発達支援センターや放課後等デイサービス事業所等の福祉資源が大変少ない状態です。

また特別支援学校はひとつもなく、糸島市内の特別支援学校に通学される生徒さんは、隣の福岡市立の特別支援学校に通学パスで1時間以上かけて通学していません。

このような状況が長年続いており、糸島市からは、隣接する唐津市にある当法人のからつ医療福祉センターに対し、糸島市療育事業へのリハビリ専門職等の派遣が要望され、10年以上職員を派遣し対応してきました。

糸島市の療育資源は慢性的に不足しており、『佐賀整肢学園には、職員派遣だけでなく事業所の設置をお願い

できないか』といった要望が糸島市及び関係者から継続的に出されていました。このような経緯で、当法人では中長期的な事業計画として位置づけ、糸島市の周辺状況調査並びに行政各関係機関との協議を3年ほど前から行ってきました。

当法人に対して、事業所設置の要望が高まり、これを受けるかたちで社会福祉法人の地域貢献として、糸島市への事業所設置が決定されました。

平成28年には第1期計画として母体となる医療機関「糸島総合クリニック」、平成29年度には第2期計画として障害児通所支援のための児童発達支援センター等を設置致します。

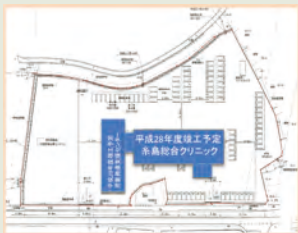
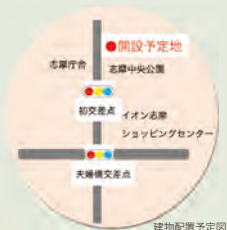
佐賀整肢学園 糸島医療福祉センター（仮称）福岡県糸島市志摩井田原

● 糸島総合クリニック（仮称）（平成28年10月開設予定）

在宅障害児へのリハビリテーションや歯科治療を提供するとともに、地域住民に対し、小児科、整形外科、リハビリテーションや歯科診療を提供します。

● 児童発達支援センター放課後等デイサービス事業所等の福祉部門（平成29年度開設予定）

糸島市並びに近隣の在宅障害児（者）への中核的な支援施設として、通所支援を実施します。



海外 研修

民間社会福祉施設等職員海外研修・調査（ヨーロッパ班）の報告

からつ医療福祉センター 総務課係長 富永 創

平成27年9月5日～19日まで、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが主催する民間社会福祉施設職員海外研修・調査に参加させて頂きました。訪問国は、北欧3カ国（スウェーデン、フィンランド、デンマーク）で、団長、本部員他、全国各地の生活支援員や就労指導員、相談員の方々13名で、障害者施設等を訪問させて頂きました。

今回の研修で一番印象に残ったのは、古い町並みでした。ただ古いだけではなく、「温故知新」という言葉がしっくりくる町並みでした。外観は古いが、一旦中に入ると、近代的なデザインの室内にすっきりとした北欧家具が整然とならび、設備は最新式。それは、観光地だけではなく、福祉施設や工場等に至るまで、同じようなコンセプトの基に整備されており、「文化の違い」を感じました。また、この「文化の違い」は、両国の国民性にも大きく影響を及ぼしているように感じました。

北欧諸国の方は、権利意識がとても強いです。18才を超えたら、障害者であっても学生であっても、働けな



デンマーク生活トレーニングホームにて 筆者後列左より2人目



デンマーク ニューハウンの街並

れは早期年金を受けながら、保護者から自立しなければなりません。その為、幼年期からの「自己決定」「自己選択」訓練の徹底ぶりは、感服の念を抱きました。

しかし、日本の良さもわかりました。相手の立場に自分を置き換えて考える心遣い。つまり、「おもてなし」の文化の良さも印象に残った研修でした。

最後に、今回の研修に関わった全ての方々へ、厚く御礼申し上げます。ここで得た成果を、今後の業務に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

大会 報告

第34回全国社会福祉法人 経営者大会参加報告

9月17日、18日に滋賀県大津市で開催された、第34回全国社会福祉法人経営者大会に、法人内より10名参加いたしました。本大会のメインテーマは「法人制度改革への対応と自主性・自律性を持った法人経営の確立」とされ、多岐にわたる社会福祉事業における経営課題等について、特に社会福祉法人の制度改革に関する内容を中心として講演やシンポジウム等がなされました。さきの通常国会においては、安保法案の関係で継続審議となった社会福祉法等の改正について、厚生労働省福祉基盤課長より全体のスケジュールとしては今のところ変更ないことが示されました。また、制度改革で義務付けられる地域貢献事業については、同課長より、制度の狭間や市場にのらない「福祉サービス」で対応することが前提であると明言されました。

この制度改革の目まぐるしい変化に対応すべく、当法人としても今後内部協議、検討を進めていく必要があります。地域貢献事業としての「生活困窮者就労訓練事業」の実施検討や、経営ガバナンスの強化、理事会、評議員会の見直



しに伴う役員改選、資金再投下への対応、退職共済制度見直しへの対応等、諸課題について関係機関との調整や他法人との情報交換を進めていきたいと思えます。

1日目の午後からは各事業分野に分かれた分科会が実施され、2日目の午前中には「社会福祉法人の『イメージ戦略』の構築に向けて」と題して特別講演がなされました。

1万人へのアンケートの結果、社会福祉法人の事業内容を知っている人は2割に留まっており、今後、制度改革も含めて「開かれた」法人となるために、ターゲットを明確にしたPRが重要とのことでした。当法人としても、この広報誌だけでなく今後も様々なかたちで情報発信をしていきたいと思えます。（法人事務局 田中邦典）

Beans では、就労継続支援 B 型サービス利用者だけではなく、生活介護を利用している方も一緒に働いています。本人の特性・個性を生かしながら、すぐにできる仕事とこれからできるようになりたい仕事など幅広い仕事内容のなかで働いていただいています。



農作業：育苗



軽作業：紙袋作成



洗車作業：車体洗浄



縫製：スタイ作成



事務補助：データ入力



軽作業：雑巾袋詰め

事業所紹介
「見つめます、
考えます。
医療と福祉」
～就労支援～

佐賀整肢学園では、利用者の皆様のライフステージにそって多様なニーズに対応すべく、法人内各事業所で様々な事業を展開しています。

今回は、ライフステージにおける「はたらくこと」を支援する事業を紹介します。就労継続支援 B 型事業は、就労の機会の提供や生産活動の機会の提供をしながら、一般就労等に向けて、必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業です。

当法人では、オックスとからつ医療福祉センターにこの就労継続支援 B 型事業所が設置されています。自宅やグループホームから事業所に通勤し、それぞれペースに合わせてできる作業を検討しながら、授産的な作業だけではなく、それぞれの事業所の特色を活かして様々な活動に取り組んでいます。

くろみランドリー

からつ医療福祉センター



天日干し



横シャツ作成



手芸ミシン



シュレッダー



コーヒー自動販売



ねぎ袋詰め

就労継続支援 B 型事業所くろみランドリーでは、主にからつ医療福祉センターの利用者の方の衣類やタオルの洗濯を行っています。その中で就労者の方は、洗濯物を干したり、畳んだりする作業をされています。その他にもそれぞれの就労者の方に応じた様々な作業を行なっています。園芸作業や横シャツ作成の共同作業では、会話が弾み、出来ないところは、お互い協力されて協調性も向上されています。

晴天の秋空のもと、こども発達医療センターでは、10月25日に第6回目となる秋祭りが開催されました。夏の暑さを避けて、「夏祭り」から時期と名称を変更し、10月に「秋祭り」として開催されていますが、当日は日差しが強く、夏の暑さが戻ってきたような汗ばむ陽気となりました。その暑さを吹き飛ばすように、威勢の良い太鼓のリズムで開会し、お神輿や利用者の音楽グループによる演奏、ヒーローショーやダンスで会場は大いに盛り上がりました。焼きそばやカレー等の出店も大盛況で、多くのお客さんと賑わっていました。多くの来賓の方々や地域の皆様、ご家族にも参加していただき、学生・法人内ボランティアのご協力もいただき、盛大に行なえたことを感謝しております。利用者もお祭りの雰囲気を楽しまれていたようで、普段は見られないような表情や笑顔がたくさん見られたように思います。今後も多くのボランティアや地域の方々のご協力をいただきながら、毎年の恒例行事として続けていければと思います。(吉岡健太)



10月19日、在宅サポートセンター・オックスにて日帰り旅行を実施しました。日帰り旅行は、利用者間の交流や就労支援利用者の接遇研修といった目的で、月1回実施しています。今回の行き先は、大分県日田市にあるサッポロビール工場です。ここでは、レストランのメニューや工場見学が好評でリクエストも多くあり、2年ぶりの訪問となりました。工場見学後の楽しみの一つ、ビールの試飲では利用者が出来立てのビールをゴクゴクと笑顔で飲まれている姿が印象的でした。旅行の感想を尋ねると『料理が美味しかった』『もう少しビールを飲みたかった』等、様々な意見を頂きました。次回の旅行でも利用者を楽しんで頂けるよう、計画をしたいと思います。

(佐藤信仁)

開所2年目を迎えた在宅サポートセンターかんざき清流苑では、今年も納涼祭を8月20日に開催しました。今年は2回目の納涼祭ということもあって、職員も色んな工夫を凝らし、利用者の皆様楽しんで頂けるよう準備してきました。納涼祭の当日は、焼きたてのお好み焼きを皆さんで食べ、アトラクションとして大正琴の演奏や射的、金魚すくい等のゲーム、大抽選会等いろいろ催して賑わいました。最後は、入居者の皆さん職員と一緒に花火大会で盛り上がり、夏の風物詩を満喫する事ができました。今後も在宅サポートセンターかんざき清流苑では、季節に応じた行事等を計画し、利用者の皆様に喜んで頂けるよう、努めてまいりたいと思います。(江里口徳彦)



事業所 TOPICS

(8月～10月)

ランチョンセミナー

9月

からつ医療福祉センター

平成23年4月より、昼休みを利用し、昼食を食べながら、原センター長をはじめ、医師、施設長、事務長、または外部研修を受講した職員を講師とし、プロジェクターを使用した30分程度の勉強会を開催しています。当初は、ほぼ看護師のみの参加でしたが、現在では看護師、支援員、リハスタッフ、管理栄養士、歯科衛生士など多くの職員が参加しています。お茶、弁当付きで非常に分かりやすい講習の為、休みの職員も受講したい内容であれば参加しているようです。

現場居残りの職員から、自分も参加したかったとの声も多く聞かれます。受講できなかった職員に対してはDVDを見て受講し、小テスト提出となっています。本来ならば、外部の開催地に出向き受講すべきですが、センター内で、昼休みの為帰宅時間も気にせず気軽に参加出来、このような環境を与えて頂き大変感謝しています。今後もランチョンセミナーで多くのことを学び、利用者に対しより良い支援を行ってきたいと思います。(中野みどり)



神埼市・城原地区「きばるさい」参加 10月

かんざき日の隈寮



「きばるさい」とは、神埼市の城原地区で1993年より開催されている地域行事です。住民同士の親睦と、日の隈寮との交流を深めることを目的に始まり、今回で22回目となります。日の隈寮は、地域貢献の一環として、定期的に城原公民館の清掃作業を行っています。

今年は19名の利用者が参加し、バナナの叩き売りや佐賀にわかの上演等を楽しまれました。また、地域の方と一緒に神埼市の踊りである「よかね神埼」を踊り、祭りを盛り上げました。

毎年参加を楽しみにされている「きばるさい」。地域の方と一緒に過ごすことで、より一層交流促進に努めていきたいと思っています。(田中貴大)

原子力災害に関する協定書

9月

佐賀向陽園・わいわい

佐賀県内には、北西部に玄海原子力発電所(東松浦郡玄海町)があります。去る平成27年3月に、佐賀県と佐賀県老人福祉施設協議会との協定により、『佐賀県原子力災害時高齢者福祉施設避難応援協定書』が交わされました。これを受けて、原子力災害が発生した場合は、県の要請に基づき、避難利用者・職員の受入はもとより、運転手や介護等を行う職員の派遣を行う協力体制が敷かれ、当該原子力発電所から半径30km圏内の高齢者福祉施設の避難受入先として、当該施設も協力を行うこととなりました。

当施設は、県北部に位置する唐津市の2ヶ所の高齢者福祉施設(①養護老人ホーム延寿荘：唐津市呼子町、②養護老人ホーム松風園：唐津市相賀)と、『原子力災害における協力に関する協定書』を交わすこととなりました。

両施設とは、施設間の距離も遠いことから、今までは交流の機会がほとんどありませんでしたが、今回の協定をもとに、平常時の情報交換や、職員等の交流を通じて関係性を築き上げていくことで、災害等の非常時に円滑に相互協力できるようにしていきたいと思っています。(早川清十郎)



さが彩発見 File 1 : けいらん (けえらん)

(唐津市で約 400 年間変わらない手法で作られる幻のお菓子)



けいらんは、お米を蒸した生地であんを巻いたシンプルなお菓子です。唐津市浜玉町浜崎の諏訪神社周辺の店舗で販売されている、伝統のあるお菓子です。お店によって、生地の弾力やあんの甘味が微妙に異なり、生地にヨモギを入れたものや、粒あんやこしあん、白あんもあります。今回は、2店舗のけいらんを購入し、編集委員で試食会を行いました。



佐賀に住んでるけど、全然知らなかった！初めて食べますよ。



からつでは定番よ〜。
みんな知ってると思ってた。



諏訪神社のあたりの4店舗くらいしか販売してないですもんね。



Aのけいらんはモチモチの生地の弾力がすごい！
楊枝で切ることができないくらいです。
Bはしっとりさっぱりして、生地がとてもやわらかいです。



甘そうと思ったけど、意外といけますね。何個でも食べられそうです。ヨモギ味や粒あんもあるんですね！店によってこんなに違うんですね！



けいらんって聞いてたので、鶏の卵(鶏卵)かと思ってました(笑)



ですよね。私も調べてみましたよ。この「けいらん」は、もともと地元の人が、5月の「お諏訪さんの春まつり」の時期に、諏訪神社近辺の outlet で売られていたものだったんですが、この地区の名物となったので、神社周辺に店舗を構え、常時販売されるようになったそうです。

ちょっと変わった名前の由来は、天正19年、太閤秀吉が朝鮮出兵の折に諏訪神社で戦勝祈願したとき、地元民がこの餅菓子を献上したところ、「この団子を食べたならば勝つまでは本国には帰らん(帰らない)」と決意したことから、「帰らん」が転じて「けいらん」と呼ばれるようになったとされています。



諏訪神社は福岡ソフトバンクホークスの関係者が戦勝祈願を行ったこともある神社です。佐賀県唐津市にお立ち寄りの際は、ぜひ諏訪神社にもご参拝いただき、けいらんを味わってみてください。

諏訪神社：〒849-5131 佐賀県唐津市浜玉町浜崎1181

学園 FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、かんざき日の隙寮で入所サービス課の職務の傍ら、書道の腕前を活かし、書道クラブの指導、各事業所の賞状や式典・行事用看板の作成等で活躍されている定松智恵子さんにお話を伺いました。

●書道との出会い

Q まず始めに書道を始められたきっかけは何でしょうか？

A 祖父と父の影響(?)で小1から習字教室に通い始め、途中1年間ブランクがありますが、高校3年まで続けました。高校の書道部に入学したものの、サボってばかりで幽霊部員でした。もっと練習しておけばよかったと後悔しています。

●書道クラブを始め

Q 定松さんは日の隙寮で平成22年より書道クラブを始められ、利用者の方にも非常に好評です。書道クラブの活動内容について教えてくださいませんか？

A 毎週水曜日の午前中、1時間程度、15名程の利用者の方が参加されています。

作品展の練習だけでなく、施設の行事で使う案内標示を書いたり、硬筆で名前の練習をされたり、自由に自分のペースで楽しんで頂いています。その他に書道クラブとして年2回広島県熊野町のふれあい書道展に出展しています。入賞されると、練習する意欲にもつながるので継続して参加したいと思っています。

広島県熊野町ふれあい書道展 日の隙寮書道クラブ入賞歴

	第25回	第26回	第27回	第28回	第30回	第31回
特選	2名	3名	1名	4名	1名	1名

●うまく書くコツは

Q 書道をする際にうまく書くコツがあれば教えてください。

A 手本もしくは自分の好きな書体をよく見て納得のいくまで何回も書くことですかね。

なかなか納得いくようには書いていませんが…



さだまつ ち え こ
定松智恵子さん

かんざき日の隙寮
入所サービス課

●書道と仕事の広がり

Q 定松さんは書道クラブ以外にも各事業所からの依頼で賞状の作成や行事毎の看板作成にも携わっていますが、書道をやっているとよかったと思うことはどういう時でしょうか？

A 宛名書き、看板作成等で個人的にも職場でもお役に立てることがあった時にやってよかったなと思います。賞状・看板作成については未熟で自己流の私で構わなければいつでもお受けしますよ。

●書道の取り持ち縁

Q 整肢学園以外からの書の依頼もあると聞きます。何か思い出に残るエピソードがあればお願いします。

A 佐賀県内の福祉系大学から成績優秀者に贈る学長賞の賞状依頼がありました。その時はどういった方に贈られるかなどはつゆ知らず…

そして新年度になり、新しく日の隙寮に配属された職員さんの名前を見てビックリ！なんと私が賞状を書いた本人が新人職員として入職してきたんですよ。

もちろん、入ってきた職員さんも私が賞状を書いたことなどは知らないで、話しをした時はビックリしていました(笑)

その職員さんも今ではしっかりと仕事を覚えて、日の隙寮でばりばり働いています。私が賞状を書いたから日の隙寮を希望された訳ではないでしょうが、何か不思議な縁を感じますね。



●最後に

Q ありがとうございます。では最後に定松さんの座右の銘をお願いしたいと思います。

A 座右の銘は「生涯勉強」です。理由は日々自分の勉強不足を痛感しているからです。学生の頃にしていなかった分、今さらのように勉強しなければ・・・と自分自身に言い聞かせている言葉でもあります。

寒さに向かうこの季節に、寒風にめげずに咲く花の代表格は椿である。

椿と言えば、皆、何を最初に連想されるだろうか。黒沢監督の映画名か、化粧品ブランド名か、或いはヴェルディ作曲のオペラであろうか。私がいつも思う「浮かべる島」、佐賀県の東松浦半島波戸岬の北方沖合に位置する加唐島の椿の群生である。加唐島は南北に細長い、面積も2.8km程の小さな島で、行政区域は唐津市鎮西町に属している。もう10年以上前になるが、この島を訪れた折、林の中の細い道を歩き進んで行って、突然目の前に鮮やかな椿の森が出現したときの驚きは、いまも冬になれば思い出す、忘れ得ない思い出となっている。まさに、加唐島が「椿の島」と言われる由縁である。呼子港から連絡船で20分程度の距離にもかかわらず、10年以上も再訪していないので、早い時期に是非ともあの椿の群生林を訪れたいと思っている。

また、加唐島は、朝鮮半島で6世紀前半に活躍した、百済の第25代の王である武寧王(462年～523年)が生誕した島とも伝えられている。この島のオビヤ浦が生誕地と言われていることから、日韓交流事業として、毎年6月に、韓国からの訪問者を招いて「武寧王誕生祭」が開催され、両国の子供連による踊りの披露などが行われ交流を深めている。

佐賀整肢学園は、平成25年12月12日に、韓国釜山広域市の学校法人浦英学園「サジク総合社会福祉館」と交流協定を締結して民間交流を行っている。サジク総合社会福祉館からの訪問団に、武寧王生誕の地が佐賀県の離島にあることを披露したところ、一同一様に驚いておられた。これまでに、双方の法人職員が2回相互訪問を行って交流を深めてきたが、これからは更に両法人相互の理解と信頼を深め友好と親善を図るため、絆を強めて行きたいと考えている。

ところで、ここまで加唐島の代名詞を「椿の島」、「武寧王生誕の島」と紹介したが、驚いたことに、いつの間にか最近「猫の島」のキャラクターが加わっていることを、最後に付け加えておきたい。



からつ医療福祉センター
リハビリテーション課副課長

棕野 智治

こども発達医療センターからからつ医療福祉センターに転動して、早10年が過ぎました。私自身、今の施設で3カ所目となりますが、一番長く勤務しています。通勤時間は1時間かかりますが、ほどよい気分転換にもなっています。これからも何事もなく安全運転でがんばって通っていきたくと思います。

私は今、リハビリテーション専門職の方を中心に、佐賀県こども発達医療センターのものを立ち上げ、その代表をしています。現在、佐賀県にはこどものリハビリテーションを中心に行っている施設は3カ所(こども発達医療センター、からつ医療福祉センター、若橋療育園)しかなく、様々な家庭の事情でそこに連れて行く事が難しく、近隣の一般病院でリハビリテーションを受けているこども達も少なくありません。しかし、一般病院の先生方は小児のリハビリテーションが専門ではないため、不安感を抱いたまま行っているという現状でした。その為、そのような先生方と連携を取って、佐賀県内のネットワークを作っていく、そして症例検討会や研修会では、主にディスカッションを中心に、参加者みんなで、こどもさんに対しての意見やアイデア等を出し合い、そして共有し合いたいという事を目的にがんばっています。皆さんにも色々ご意見を頂く事もあるかと思っております、その時はどうか宜しくお願いします。

NEXT...オーグスのあの人にバトンタッチ!!

平成 27年 8月～10月

- 協働ボランティア**
 - 【こども】 親和会様 佐賀整肢学園友の会様 SVC様 FNW様 などでこの会様 九重工様 佐賀清和高校様 生津高校様 神埼清明高校様 佐賀市医師会立看護専門学校様 ふれあひサロンはなはな会様 松原こどもクラブ様 和太鼓「葉隠」様 PROJECT-K様 PROPS dance studio様
 - 【オーグス】 神埼清明高校様 西九州大学様 佐賀女子短期大学様 北城高等学校様
 - 【清流苑】 竹の会様 音楽愛好会(カノン)様 輪の会様 神埼保育園様 藤原流日舞舞様
 - 【からつ】 折尾幸子様(バウ教室) 川打信子様(書道教室) 加藤万里子様(民謡教室) 田村節二様(民謡教室) 無律呂正様(陶芸教室) 辰野真由美様(手芸教室)
 - 【日の隈】 山崎節子様(日舞クラブ) 三好富美子様(生花クラブ) 西九州大学ボランティア
 - 【向・わ】 佐賀少年刑務所様(訪問理由) 金立町社協様(聴聴ボランティア) 金立小学校4年生様
- 施設見学に来訪**
 - 【こども】 唐津看護専門学校看護専門課程31名様 太宰府市立水城西小学校通級指導室1名様 県立広島県保健福祉部コミュニケーション障害学科1名様
 - 【オーグス】 佐賀市役所障害福祉課 1名様 長光園 2名様 大和特別支援学校 1名様 金立特別支援学校 1名様 佐賀県立自覚学 1名様 からつ医療福祉センター 家族会 26名様
 - 【清流苑】 佐賀県建築士会 20名様 晴香園 3名様
 - 【からつ】 佐賀県立唐津特別支援学 04名様 佐賀県立北部特別支援学 8名様 佐賀県立万寿特別支援学 15名様 佐賀県立うらしの特別支援学 5名様 佐賀県立衛生専門学校 2名様 長崎県立小中学校(佐賀分校) 4名様 福岡市立今津特別支援学 14名様 唐津市立七小 3名様 佐賀整肢学園オーグス 8名様 学校法人和学園国際保健看護認定こども園和幼稚園 4名様 佐賀県立5名様 佐賀市教育委員会 4名様 唐津市南區公民生委員児童委員協議会 19名様 社会福祉法人若橋療育医療センター 9名様 唐津市立藤山小学校 1名様
 - 【日の隈】 柳川市民生児童委員協議会 21名様
 - 【向・わ】 からつ医療福祉センター 家族会 26名様
- 実習生受入**
 - 【こども】 東京医療専門学校 1名様 神埼清明高校 2名様 福岡国際医療福祉学院 2名様 西九州大学短期大学部 2名様 佐賀女子短期大学 2名様 熊本総合医療リハビリテーション学院 1名様 医療福祉専門学校 22名様
 - 【オーグス】 佐賀大学 2名様 西九州大学短期大学部 5名様 佐賀女子短期大学 2名様 泉京中学校 3名様
 - 【清流苑】 医療福祉専門学校 2名様 神埼清明高校 4名様 西九州大学健康栄養学 4名様 西九州大学社会福祉学 5名様 神埼中学校職場体験 2名様 吸引研修 3名様
 - 【からつ】 西九州大学社会福祉学 1名様 中村学園大学短期大学部 1名様 学校法人高木学園福岡国際医療福祉学院 1名様 唐津市立立波多中学校 1名様 西九州大学短期大学部幼児保育学 2名様
 - 【日の隈】 西九州大学社会福祉学 2名様 西九州大学短期大学部 7名様
 - 【向・わ】 西九州大学社会福祉学 1名様 佐賀大学教育学部 5名様 介護労働安定センター 1名様 泉京中学校 3名様 城北中学校 2名様

見どころ

表紙の写真は「ハラステンボス号」です。なんかつもたつこく見えるのは私だけでしょうか? 次号で電車シリーズは完結しますが、さて何の写真が載るのかお楽しみに!! あれですすよ! 内容は REPORT や TOPICS、事業所紹介とボリュームたっぷり。
1番は「佐賀銘菓 けいらん」の特集と学園 FOCUS です。皆様「学園タイムス」をお楽しみ下さい。

